

## プランB

# 歩行者・自転車ネットワークの整備

## 1. 現状と課題

### 1-1 現状

自転車は、安全性の面から車道の走行は困難である。さらに、自転車が走行できる歩道は、連続したネットワークとしての整備が遅れており、歩行者と自転車が錯綜して事故の危険が大きいなど、交通安全上の問題が指摘されている。



また、駅前広場及び主要道路の歩行空間が狭いため、区民及び来街者が歩道にあふれ、障害者・高齢者などの交通弱者にとって、安心してスムーズに通行することが困難な状況となっている。

加えて、池袋駅への自転車利用の増加に伴い、放置自転車が著しく増加している。そのため、歩行者の通行の妨げや街の景観を損なうなどの問題が起きており、自転車の利用者の一層のモラルの向上が望まれている。

### 1-2 課題

高齢者や障害者の方だけでなく、子育てファミリーも含めたすべての人が池袋駅を中心として、多様な目的での社会参加の実現に向けて安全に安心して行き来することが求められている。また、池袋駅及び周辺は、「こわい・きたない・快適でない」というイメージがあり、加えて、



駅東西の交流が分断され、「地下通路は多くあるがわかりづらい」「出入口のバリアフリー化が不足している」「駅前の歩道は自転車・看板等で歩きづらい」などの意見が多く寄せられている。

## 2. 目標と施策の方向

池袋副都心の中心核として、グリーン大通りのLRT計画等と連携した、駅前広場整備、歩行者・自転車通行帯を構築するとともに、駅構内自由通路のバリアフリー化を実現し、人と環境に優しいまち・池袋の都市空間を創出する。



### 2-1 目標

「ユニバーサルデザイン都市」を到達点に、具体的には「きれい・やさしい・きもちいい・プロムナード池袋」を目指す。

そのためには、住民にとって安全で快適な自転車利用及び回遊歩行空間の形成を図るため、都市計画道路などの効果的な整備など、さまざまな課題に応える施策を実現させる。



## 2 - 2 施策の内容

障害者や高齢者を含む全ての人々が、安全・安心・快適に移動できる環境づくりを交通体系施策の主要な柱と位置づけ、総合的な整備を推進する。

具体的な施策として、次の4点について実施の方策を検討する。

**池袋駅周辺における歩行者・自転車通行帯の確保及び副都心外からの歩行者・自転車ネットワークの形成を図る。**

**交通バリアフリー化整備事業に積極的に取り組む。**

**関係機関と協力して駅前広場の拡幅整備事業を進める。**

**歩行空間の整備に関する施策の実現については、企業や住民の参加協力を得て、環境対策・交通安全の遵守等、利用者のモラル向上の展開を図る運動を進める。**

## 3 . 事業計画案

### 3 - 1 歩行者・自転車通行帯の構築

基本的な考え方として、歩道幅員 5.5m 以上ある箇所は 2.0mの自転車道を整備する。5.5m未満の自転車歩行者道はライン、カラー舗装、サイン等で自転車通行帯を明示し、通行の安全性を向上させる。今後、整備する都市計画道路は優先的に位置づけ、既設道路は改修時期に整備する。



一方、歩行者・自転車ネットワーク道路としては、「自転車利用環境整備基本計画」を策定し位置づけをしており、優先的に整備する。



### 3 - 2 交通バリアフリーの促進

高齢者や障害者の方だけでなく、子育てファミリーも含めたすべての方々が、快適に移動できる環境づくりを推進する。

駅構内のバリアフリー

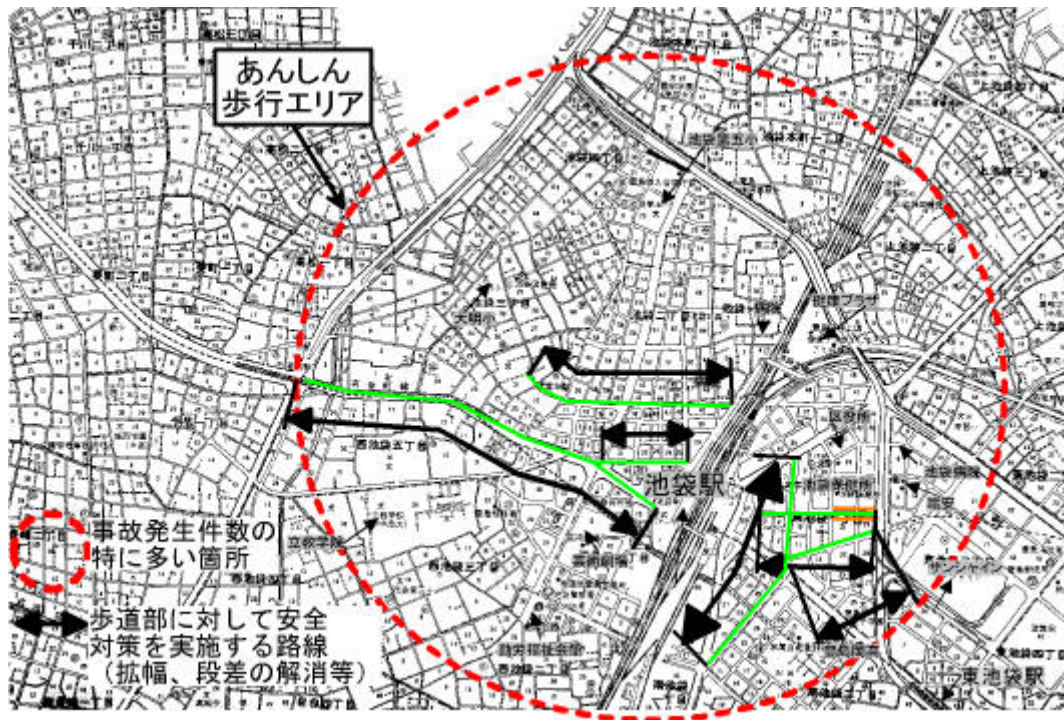
駅周辺道路のバリアフリー



池袋駅周辺重点調査による問題点の抽出を踏まえ、新基本構想を策定し、特定事業計画の整備推進により、総合的に整備を図る。

駅周辺の主要道路のバリアフリー化整備を、あんしん歩行エリア及び都市計画道路など主要な道路で促進する。

### あんしん歩行エリア



## 3 - 3 主体の検討

### (1) 区施行によるもの

- 歩行者・自転車ネットワーク網整備及び歩行者・自転車通行帯
- 交通バリアフリー整備
- 駅前広場の整備

### (2) 都施行によるもの

- 歩行者・自転車ネットワーク網及び歩行者・自転車通行帯整備
- 交通バリアフリー整備
- 駅前広場の整備

### (3) 鉄道事業者によるもの

- 駅構内のバリアフリー化整備